

作物名：ナス

病害虫名：アザミウマ類

ミナミキイロアザミウマ（学名：*Thrips palmi*）

ミカンキイロアザミウマ（学名：*Frankliniella occidentalis*）

ヒラズハナアザミウマ（学名：*Frankliniella intonsa*）

## 1 被害の特徴

- ナスには、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ等が寄生する。
- いずれの種も葉の表皮を加害し、カスリ状になる。ヒラズハナアザミウマの場合は、基本的に葉裏の葉脈間を吸汁するので葉裏に白色の小斑点が出来るが、ミナミキイロアザミウマは葉表・葉裏とも加害するので、葉脈に沿って無数の白色の小斑点が並ぶとされる。
- ミナミキイロアザミウマによる果実の被害症状は、ガク下から果頂部に向かって繊維状に褐色の傷跡が生じ、ひどい場合にはケロイド状になる。



写真1 花に寄生するアザミウマ類（左図）

写真2 ミナミキイロアザミウマ（右図）

## 2 生態

- 春から秋にかけて開花する多くの植物の花に見られる。
- 成虫自体の飛翔力は小さいが、気流に乗ってかなりの距離を移動できる。
- ミナミキイロアザミウマの場合、1世代に要する期間は20℃で約25日、25℃で約14日、ミカンキイロアザミウマの場合20℃で約20日、25℃で約12日、ヒラズハナアザミウマの場合25℃で約11日である。

## 3 発生しやすい条件

- 高温・乾燥条件下で多発する傾向がある。
- 梅雨時期に降雨が少ない年、施設栽培や雨よけ栽培で発生が多い。
- ほ場内もしくはほ場周辺に雑草が多いと、そこが発生源となることがある。

## 4 防除方法

- 定植前および栽培期間中は、ほ場内およびほ場周辺の雑草を除草し、発生源をなくす。
- 発生を認めたら、登録のある殺虫剤を散布する。もしくは、施設栽培では発生直前～発生初期に、スワルスキーカブリダニ剤等の天敵製剤を利用する。
- 施設栽培では栽培終了後、施設を閉め切って蒸し込みを行う。

## 5 出典

### (1) 参考文献

- 農業総覧 原色病害虫診断防除編 2-①（農文協）
- 農作物のアザミウマ（全農教）

### (2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影